

教科等	授業改善の視点	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	<p>①言葉の特徴や使い方等の基礎的・基本的内容の定着に主体的に取り組めるような授業内容・方法の工夫【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②デジタル教科書を活用し、一人一人の学習過程に応じた支援の充実【ICT機器の活用】</p>	<p>①全国学力調査では「書くこと」「読むこと」領域で都の平均より正答率が高く、記述式の問題も正答が高い傾向が見られた。一方で、「知識・技能」の中での「言葉の特徴や使い方に関する事項」や、短答式の問題等で正答率が下がる傾向があり、言葉の意味を的確に捉え要点を伝えることが苦手であることが分かる。</p> <p>②授業アンケートでは、授業自体への満足度は高い傾向があるが、「すすんで学習している」という質問への回答が他の項目より下がる。自分で理解したり、考えたりすることに個人差が見られる。</p>	<p>①言葉の意味を調べたり、語彙を増やしたりする学習を計画的に取り入れて、継続的に多くの語彙に触れられる工夫をする。また、記述・表現したものについて振り返り、言葉の使い方を正しいか見直す時間を取り入れることで、基礎的内容の定着を図る。</p> <p>②児童用デジタル教科書のルビや黒板機能等を用いて、言葉の読み方や意味につまずく児童も自分で使いこなして理解を確実にできるように活用方法を共有していく。</p>
社会	<p>①学ぶ楽しさを実感させる授業、個に応じた指導の充実【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②ICT機器を用いた課題把握と振り返りの充実【ICT機器の活用】</p>	<p>①学校アンケートでは、「授業中、すすんで学習している」の質問項目に対して肯定的な回答をした児童が全体の9割と非常に高い。学習内容に興味・関心をもって取り組んでいることが分かる。</p> <p>②教科書や資料集などの資料から、まとめに必要な語句や出来事を読み取ることができる児童は多いが、自分の言葉でまとめたり気付いたことを書いたりすることを苦手とする児童がいる。</p>	<p>①時事的な話題を生活と結び付けたり、過去の歴史と現在の状況の関連に注目させたりすることで、学習への意欲を高めていく。教科書や資料集に留まらず、様々な情報や意見をもとに自分の考えを深めていく楽しさを味わわせる。</p> <p>②調べ学習に学習者用端末を使ったり、データ資料を送ったりして、学習のまとめや新聞づくりに活用して、書くことを苦手とする児童が取り組みやすいようにする。</p>
算数	<p>①「問題発見」「自力解決」「集団検討」「統合的・発展的な考え方」の学習過程を主体的に取り組めるような授業形態・内容・方法の工夫【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②課題を把握し、数学的な見方・考え方に基づいた課題解決方法を理解できるような授業の充実【ICT機器の活用】</p>	<p>①学校アンケート「授業中、集中して取り組んでいる」という質問項目に対して、「とてもそう思う」と答えた児童は、39%と他学年と比較して低い水準にある。</p> <p>②ワークテストの思考・判断・表現に関する問題の正答率が低い傾向にある。特に「分数のわり算」「比」のテストに関しては、平均点が60%台と特に低い傾向にあり、問題・課題把握、課題解決のための正しい立式ができるかどうか正答率に大きく影響している。</p>	<p>①授業の導入時、問題や課題を提示する際には、具体的な場面を提示、例示し、問題場面を想起させやすいような学習内容の工夫をする。また、集団検討場面では、学習集団同士の考えを共有し、問題解決の方法について学び合う機会を充実させることで、児童の意欲喚起につなげる。</p> <p>②問題解決場面での集団検討場面で、学習支援アプリ等を用いて、考え方の共有を図る。また、デジタル教科書等を活用して、数量関係を正しく理解できるように資料提示をする。</p>
理科	<p>①問題解決の過程を通して、理科学的な資質・能力の習得【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②ICT機器を用いた課題把握と振り返りの充実【ICT機器の活用】</p>	<p>①初めて行う実験に対して、安全面での注意点を守り意欲的に取り組むことができた。一方で、積極的に実験に関わろうとする児童に任せきりの児童も複数名いた。</p> <p>②考察をノート等には書けているが、積極的に発言したり他の児童と共有したりしようとする児童が少ない。</p>	<p>①実験・観察は班の人数を少なくし、班の中で役割分担して、一人一人の活躍の場が多い授業をする。引き続き、薬品や実験器具の安全な取り扱い方を丁寧に指導する。</p> <p>②学習支援アプリを更に活用し、自分の考えを言葉やその他の方法によって表現されたものを共有して対話していきそれによっていろいろな考え方を結び付けられるようにする。</p>
音楽	<p>①学ぶ楽しさを実感させる授業の充実【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②興味・関心を高め、理解を深めるためのICT機器の活用【ICT機器の活用】</p>	<p>①アンケート項目「すすんで学習している」に対して肯定的な回答をした児童が93%で、5年生時より1ポイント改善している。そのうち「とてもそう思う」と回答した児童は9ポイント増え、ほとんどの児童が昨年度以上に、主体的に授業へ参加していると考えられる。</p> <p>②アンケート項目「授業は分かりやすい」に対して「あまりそう思わない」の回答をした児童が4%いるが、3ポイント改善している。音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くことや、</p>	<p>①感覚統合が促進されるような常時活動や、友達と関わり合う活動を取り入れ、相互意見交流や音楽表現を介した交流を通して、音楽表現を深めていく。録音や録画を活用して、演奏を振り返り、次の課題の見直しをもって主体的に活動できるようにする。</p> <p>②比較関連させる授業で、要素とその働きの視点から分析的に示し、考えを広げ、深めていくことができるようにする。ICTを活用し、思いや意図を視覚化できる教材教具を用いる。また、児童が自身の</p>

		それを表現に生かす学習を重ねてきたこと、昨年度に連合音楽会や校内の音楽祭で、自分の希望や技能にあった楽器やパートを選んで演奏する経験などを通して、理解を深めてきたと考えられる。	学習を評価し、自分自身で課題を選択、設定できるようにすることで、主体性をもって技能の習熟を図るようにする。
図画 工作	①学ぶ楽しさを実感させる授業の充実【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ②振り返り活動の充実【ICT 機器の活用】	①校内実施の「1 学期授業アンケート」では、「授業中、すすんで学習している」という質問項目に対して「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的な回答をした児童が 98%であった。このことからほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。 ②製作活動中や製作後に互いの作品を鑑賞し合い、よさを見付けたり自分の表現に生かしたりすることについて、まだ成長できる部分があるとする。	①引き続き児童が <u>表し方や材料を自ら考えたり決定したり</u> することができる授業づくりに努め、今後のアンケートでも「すすんで学習している」という質問項目に対して「とてもそう思う」の回答が 90%以上得られるようにしていく。 ②作品完成後だけでなく、 <u>製作活動中であっても互いの作品を鑑賞したり互いに相談し合ったりしながら問題解決ができるように授業を展開していく</u> 。また、 <u>学習者用端末を使用して作品の共有を行い、学びを深めていけるようにする</u> 。
体育	①苦手意識のある運動領域に対しても、主体的に取り組めるような授業形態・内容・方法の工夫【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ②振り返りの活動において、自身の運動を評価し、フィードバックできるような ICT 機器の活用方法の工夫【ICT 機器の活用】	①アンケート項目の「すすんで運動に取り組んでいる」について、肯定群は高い水準にあるが、運動領域によっては、意欲に差が見られる。特に、取り組む運動に苦手意識がある単元については、主体的に取り組む姿勢が後退する児童が一定数いる。 ②苦手意識のある運動に対して、上手くいかない原因を考え、練習に活かせる児童とそうでない児童がいる。自分の動きを客観視すること、客観視した上で自己分析すること、上手くいかない原因に対する改善策を見出し練習に活かすことが活動の中で必要である。	① <u>ペア学習やトリオ学習など、お互いに支援し合う活動形態</u> をとり、友達との関わりの中で、運動技能を向上させられるような環境をつくる。 <u>技能目標を示すためのワークシートを用意し、マイスタート、マイゴールを意識させ、成長を実感させる</u> 。 ② <u>運動の様子を動画で撮影させ、自己評価、分析できるような活動を取り入れる</u> 。 <u>上手くいかない原因について分析できるよう、解決方法をまとめた動画のリンクを示すなど、解決方法の支援をおこなう</u> 。
家庭	①学ぶ楽しさを実感させる授業の充実【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ②ICT 機器を用いた言語外情報としての視覚教材の活用【ICT 機器の活用】	①アンケート項目「すすんで学習している」に肯定的な回答をしている児童は 91%であり、特に実習に対して興味関心が高く、実習後の生活に活かしている児童が多い。一部の児童で、自分の考え・知識に固執して、柔軟に考え直したり、友達と学んだりすることに課題が見られる。 ②アンケート項目「集中して取り組んでいる」に否定的な回答をしている児童が 15%おり、より多くの児童にとって分かりやすく集中できる工夫が必要である。	① <u>すすんで取り組んだり、自分で工夫を加えたりしている児童の様子を共有し、全員が「できた」と実感できる個に応じた指導</u> をしていき、引き続き 9 割以上を継続できるようにする。 <u>ペアやグループで相談したり、教え合ったりする活動</u> を行い、互いのよさを学ぶ時間をつくる。 ② <u>作業の様子を撮影したり、お手本になる画像や動画を繰り返し確認したりする</u> など、継続して ICT 機器の活用をすすめる。 <u>振り返りの蓄積をして、自分の成長を感じ取れるようにする</u> 。
外国語 活動	①考える時間が確保された授業の実施【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ②ICT 機器を用いた言語外情報としての視覚教材の活用【ICT 機器の活用】	①アンケート項目「授業は分かりやすい」に対して肯定的な回答をした児童が 93%である。否定的な回答をしている 7%の児童が分かりやすいと感じられるような授業づくりが課題である。 ②アンケート項目「集中して取り組んでいる」に対して肯定的な回答をした児童は 90%である。残りの 10%の児童の集中を切らすことなく、最後まで参加させることが課題である。	①互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を通して指導を行い、児童が <u>どういう意味なのか、考えながら英語を聞いたり、自分で考えて自分の思いに合わせて英語を発したりする機会を大切に</u> した授業を行う。 <u>発話には recast で反応し、自分の英語が「通じた」、言っていることが「わかった」という達成感が得られるように指導する</u> 。 ②理解促進のため ICT で絵や写真を提示し、 <u>児童の興味・関心に合わせて内容を工夫する</u> 。また、ICT を活用し、 <u>動画教材を使うことで児童が集中して言語材料に慣れ親しみ続け、主体的に言語材料の意味内容を捉えて習得につなげられるようにする</u> 。
道徳	①主体的に自己を見つめ、生活に生かそうとする授業の充実【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ②ICT 機器を用いた、自己の考えを深める授業の充実【ICT 機器の活用】	①資料から登場人物の気持ちに寄り添ったり場面から様子を想像したりすることはできるが、今後そうと考えることが難しい児童が多い。 ②自分の考えをもつことに時間を要したり、表現したりすることに難しさを感じている児童が多い。	①授業の導入では、児童の身近にある話題や出来事を取り上げ、児童が自己の生活に結び付けて考えやすいように授業を工夫する。 ②学習支援アプリ等を用いて、書くことに苦手意識がある児童も自分の考えを表現しやすいようにする。また、 <u>学習支援アプリを活用して考えを共有する時間を設け、自己の考えを深める</u> 。

